

研究・調査報告書

報告書番号	担当
237	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Impact of lowering the legal BAC limit to .03 on teenage drinking and driving related crashes in Japan. 日本において血中アルコール濃度規制値を 0.03mg/mL に低下させたことが 10 代の車両運転事故に及ぼす影響	
執筆者	
Desapriya EB, Shimizu S, Pike I, Smith D.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Nihon Arukoru Yakubutsu Igakkai Zasshi. 2006 Dec;41(6):513-27.	
キーワード	
法的アルコール血中濃度、10 代車両運転者、アルコール関連衝突事故 (crash)、単車両夜間衝突事故 single vehicle nighttime crashes (SVNC)、抑制理論	
要 旨	
<p>背景：</p> <p>2002 年 6 月に道路交通法の改正により飲酒運転、飲酒事故に対する罰則が著しく厳しくなった。中でも運転中の法的アルコール血中濃度が 0.05mg/mL から 0.03mg/mL に引き下げられた (訳者注 “酒気帯び運転”)。この基準値引き下げの根拠として、本規則施行により運転前の飲酒量の減少が予想され、衝突事故の危険の低減、アルコール関連の衝突事故、死傷者の減少を意図したものであった。</p> <p>目的：</p> <p>2002 年に施行された法的アルコール血中濃度値の引き下げが 10 代の車両死傷事故にどこまで影響を及ぼしたのかを定量的に検証する。</p> <p>結果：</p> <p>アルコール血中濃度基準値引き下げ導入後、アルコール影響下にある若年運転者数が統計学上有意に減少した。このことはこの年齢層が法改正に対応し行動を変化させたことを示唆している。また 16 歳から 19 歳の運転者によるアルコール関連の衝突事故、単車両夜間衝突事故も統計学上有意に減少しており、この事実は我々の仮説と一致している。それに対し同期間内での全衝突事故率、負傷、歩行者死亡率は統計的に有意な減少も増加もみられていない。</p>	